

【優 秀 賞】



氏 名 趙 静
(チョウ セイ)

国・地域 中国 

在日期間 9ヶ月

勤 務 先 薩摩川内市(国際交流員)

タイトル : 異文化の美点と美を楽しもう

皆さん、こんにちは。趙静と申します。中国から参りました。今年度は薩摩川内市で小学生と幼稚園の二人の子供を育てながら、国際交流員として働いています。子育てをしながら働くのは大変ですね。さらに、外国人として、日本人と一緒に仕事し、日本人と生活をしていると、ときどきカルチャーショックでイライラしてしまうことがあります。皆さんも、そういう経験をしたことがあるのではないのでしょうか。そこで今日は、文化の違いについて考え、「異文化の美点と美を楽しもう」について、お話をさせていただきます。

薩摩川内市に着いた日に、銀行へ口座を開きに行きました。パスポート、在留カードや身分証明書などを提出すると、職員さんは「どうぞ、お掛けになってお待ちください。」と言いました。10分後、名前が呼ばれ、印鑑を押しにカウンターに行きました。それから席に戻って、銀行が用意してくれた飲み物を飲んで、テレビを見て待っていました。「日本の銀行いいですね。何でもあります。」と感心していました。20分ぐらいで出来るだろうと思っていましたが、30分経ってもまだ出来上がってきません。40分後、やっと名前が呼ばれました。職員さんは微笑んで、通帳の使い方などを一つ一つ詳しく教えてくれました。通帳はその場で渡されましたが、カードは一週間後、郵便で送付することでした。それを聞いて、びっくり仰天しました。どうしてそんなに遅いのですか。中国では、口座を開く時、身分証明書を持って行けば、15分ぐらいしかかかりません。カードもすぐに手に入ります。

日本の銀行のサービスもいいですが、でも、なぜ銀行の業務処理スピードはこんなに遅いのでしょうか。よく考えてみれば、やっぱり文化の違いからです。日本の銀行のお客さんの席はロビーの真ん中に設置されて、待っているうちに、お客さんは気軽に自分なりの時間を過ごせます。そして、お客さんに待つ時間を退屈させないために雑誌、新聞、テレビなどを用意しています。中国では、カウンターの直前に椅子があって、お客さんは職員の目の前に座って待ちます。職員とお客さんはお互いにプレッシャーを感じて、速くしなければならないのです。日本の職員はお客さんに詳しく説明して、最後に

丁寧に「ほかに何かわからないことはありませんか。」と聞きます。それに対して、中国の職員はさっさと説明して、できるだけ早く終わらせます。日本が過程を大切することと違って、中国は効率と利便性を大事にします。サービスの重点が違って、どちらがよいのかは、人によって、答えも違います。

同じように、色についての美意識もそうです。結婚する時、縁起のいい色として、中国人は赤が好きで、日本人は白が好きです。中国人の立場から見ると、赤は血を象徴して、生命力に満ちた色です。日本人の立場から見ると、白は清潔さを象徴して、神聖で貴い色です。赤と白とどちらがよいのか、答えにくい質問です。赤は赤の鮮やかさがあります。白は白の潔さがあります。

違った美意識はそれぞれの自然環境の中で育ったもので、優劣はありません。違った文化があるからこそ、地球は多彩な世界になります。相手の文化や習慣を否定するわけではなく、違う文化と習慣の美を見つけるべきです。

中国にいる時は、サービスの速さと便利さを楽しんで、日本にいる時は、サービスの質とまじめさを楽しみましょう。そうすれば、私たちは異文化それぞれの美を発見して、新しい世界を開くことが出来ると思います。

ご清聴ありがとうございました。